

和歌山県和歌山市

雑賀崎の観光スポット（レモンの丘）整備と 活用のための情報発信



【活動の基本情報】

参加学生数：8名（1年生：3名、2年生：2名、4年生：3名）

活動期間：2022年4月～

1. 活動実施の経緯

私たちは、2019年度に「大学生観光まちづくりコンテスト」に参加したことをきっかけに雑賀崎での活動を開始した。2020～2021年度は「雑賀丸」として、漁師や地域住民の方々と協力しながら住民や観光客の方々へのアンケートの実施・分析、留学生にむけたモニターツアーの計画、郷土教育の計画などを行ってきた。今年度よりLPP（L活）として枠組みを変更し、上記の活動をより実践的な活動に発展させてきた。

2. 活動の内容

今年度は、現地訪問、レモンの丘利活用の計画や竣工式への参加（2023年3月参加予定）、空き家利活用に向けたイベントの準備、運営補助（予定）を行ってきた。2回実施した現地訪問（2022年7、8月）では、地区内の探索、現地の方々との交流だけでなく、現地の方が営む民泊での宿泊体験やはたうりの見学等も行った。2回目の訪問時に現地の方から誘いを受け、チーム雑賀崎（行政が支援する地域住民の団体）の会議に参加させていただくことになり、2023年2月25日に開催予定のイベントに向けて、会議や空き家清掃などの準備を進めている。当日は今までの活動の成果還元や運営補助を行う予定である。

旧雑賀崎小学校の跡地にあるレモンの丘では、ベンチやブランコなどの整備が和歌山市により進められている。地域住民にとって親しみのある場所を、観光スポットとして魅力を発信することを目標に会議を進めてきた。また、3月4日に行われるレモンの丘の竣工にも出席予定である。これらの活動を円滑に進めるため、週1回程度のミーティングを行い、意見を出し合ってきた。

3. 活動を通じて

活動を通して、観光客や住民のニーズを把握し、取り組みを提案、実施することができた。現地の方々との対話によって、地元住民が誇りをもつ雑賀崎の魅力を理解し、観光地としてだけではなく、移住者を誘致する方法も考える活動にまで発展させることができた。

4. 成果ポスター

和歌山市

雑賀崎 PPP



▲雑賀崎のまち並み。イタリアのアマルフィに似ている。

★活動経緯

・これまでの活動について

★活動報告

○現地訪問 1 回目

- ・地域住民の方々との交流
- ・Gatto blu (ガットブル)
- ・その他の訪問場所



Gatto blu の内装



Gatto blu



レモンの直に
植樹されたレモンの木

▼雑賀崎の灯台




▲衣美須(えびす)神社

○現地訪問 2 回目

- ・はたうり
- ・民泊「新七屋」

宿した民泊
「新七屋」さん



はたうり
の様子



★今後の展望

- ・地元の方々や観光客のニーズの把握
- ・地域住民との対話の必要性
- ・雑賀崎の魅力理解
- ・観光先、移住先に雑賀崎を選んでもらうために

★空き家利活用



▲イベントに向けて空き家の清掃中。

★レモンの丘



▲ブランコ、鏝、ベンチなどを創設し憩いの空間に。

49

合同報告会 当日の様子

和歌山県和歌山市

テーマ：雑賀崎の観光スポット（レモンの丘）整備と活用のための情報発信

雑賀崎 LPP は、メンバー7人で報告させていただきました。報告では2度の現地訪問、レモンの丘・空き家利用のイベント、今後の展望などを発表し、学生だけでなく、それぞれの地域の関係者の方々にも興味関心を持っていただきました。



コメントシートでは、非常に多くの方から反響をいただきました。その中でも、特に多かったコメントは、ポスターのデザインに関するコメントと、L活としての活動に興味を持ったというものでした。

ポスターについては、担当の学生が雑賀崎のイメージを基に作成しました。「かわいい」「写真が多く使われていて見やすい」などの意見をいただきました。

私たちは、枠に囚われずに地域に貢献出来るという点がL活の良い点だと考えています。学生主体となって自分たちで地域の人と話し合いを重ね、ゴールに向かっていくことを今年度経験できたことは、今後のL活の活動にも繋がっていくと考えています。このようなL活の制度については、ディスカッション中にも多くの質問をいただき、L活とLゼミの違いも詳しく知ることができました。

報告会全体を通して、他の参加者から多くの刺激を得たため、今後の活動に活かしていきたいです。